



2015年12月期 第3四半期財務・業績の概況(連結)

2015年11月5日

会社名 サントリーホールディングス株式会社 URL <http://www.suntory.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)新浪 剛史
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員 広報部長 (氏名)濱岡 智 広報部 TEL (03)5579-1150
 TEL (06)6346-0835

(百万円未満切捨て)

1. 2015年12月期第3四半期の連結業績(2015年1月1日～2015年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2015年12月期第3四半期	1,970,355	10.5	130,610	11.7	109,209	△0.7	32,083	9.0
2014年12月期第3四半期	1,782,444	18.5	116,880	30.7	110,002	29.6	29,428	△84.0

(参考) のれん等償却前利益

	営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2015年12月期第3四半期	181,954	20.2	160,553	11.1	75,213	34.0
2014年12月期第3四半期	151,350	41.0	144,472	40.5	56,129	△71.8

(注) のれん等償却前利益 = 利益 + M&Aにより発生するのれん、商標権等償却費

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2015年12月期第3四半期	46	95	-	-
2014年12月期第3四半期	43	13	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	
2015年12月期第3四半期	4,631,300	1,162,855	1,162,855	1,162,855	18.5	
2014年12月期	4,536,537	1,190,756	1,190,756	1,190,756	19.4	

(参考) 自己資本 2015年12月期第3四半期 854,694 百万円 2014年12月期 882,022 百万円

2. 2015年12月期の連結業績予想(2015年1月1日～2015年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通 期	2,650,000	7.9	193,000	17.1	162,000	5.3	50,000	30.3	73	17

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(参考)

のれん等償却前利益	261,000	20.9	230,000	12.2	108,000	36.5
-----------	---------	------	---------	------	---------	------

EBITDA倍率 2015年12月期(予想) 4.6
 ※EBITDA倍率 = 劣後債務資本性考慮後ネット有利子負債(借入金+社債-現金・預金他) ÷ EBITDA

D/Eレシオ 2015年12月期(予想) 1.10
 ※D/Eレシオ = 劣後債務資本性考慮後ネット有利子負債 ÷ 純資産

※ この四半期財務・業績の概況は、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は受けていません。

経営成績

1.当第3四半期連結累計期間の概況

当第3四半期(2015年1月1日～2015年9月30日)の世界経済は、不確実性が続く環境であったものの、全体として緩やかな回復がみられました。わが国経済においては、個人消費に底堅い動きが見られるなど、緩やかな回復基調が続きました。

こうした中サントリーグループは、〈飲料・食品〉〈酒類〉〈その他〉の3つのセグメントにおいて国内外で積極的な事業展開を行いました。当第3四半期の業績は、売上高1兆9,704億円(前年同期比110.5%)、営業利益1,306億円(同111.7%)、経常利益1,092億円(同99.3%)、四半期純利益321億円(同109.0%)となりました。

なお、グローバル企業との比較に有効な指標として、のれん等償却前利益では、営業利益1,820億円(前年同期比120.2%)、経常利益1,606億円(同111.1%)、四半期純利益752億円(同134.0%)となりました。

〈飲料・食品セグメント〉

[サントリー食品インターナショナル\(株\)](#)は、ブランド強化や新規需要の創造に取り組み、国内・国際事業両輪でさらなる成長を図りました。また、同グループ全体での品質の向上や、コスト革新による収益力強化にも取り組みました。

国内事業では、重点ブランドの強化に加え、新しい価値を持つ商品の投入や高付加価値商品の強化を通じ、新たな需要の創造に取り組みました。

「[サントリー天然水](#)」は、“清冽でおいしい水”“ナチュラル&ヘルシー”をブランド独自の価値として訴求しました。「[サントリー 南アルプスの天然水 スパークリング](#)」「[サントリー 南アルプスの天然水&朝摘みオレンジ](#)」が好調に推移したことに加え、4月に発売した「[サントリー 南アルプスの天然水&ヨーグリーナ](#)」も寄与し、販売数量は大幅に伸長しました。

「[BOSS](#)」は、主力商品のリニューアルに加え、「[プレミアムボス ブラック](#)」「[同 微糖](#)」が好調に推移し、販売数量が大きく伸長しました。

「[オレンジーナ](#)」は、オレンジーナ・シュウェップス・グループと共同開発した「[レモンジーナ](#)」の新発売も寄与し、販売数量が大幅に伸長しました。

特定保健用食品は、引き続き好調の「[伊右衛門 特茶](#)」に加え、リニューアルした「[サントリー 黒烏龍茶](#)」や「[ボス ブラック\(特定保健用食品\)](#)」の発売などが寄与し、販売数量が前年同期を大きく上回りました。

また、7月31日付でジャパンビバレッジグループおよびジェイティエスターグループが同社グループに新たに加わりました。“総合飲料サービス提供事業”を開始し、さらなる成長を目指していきます。

国際事業では、各エリアにおいて重点ブランドの一層の強化やコスト削減等を実施しました。

欧州では、「Orangina」^{オランジーナ}「Schweppes」^{シュウェッペス}「Lucozade」^{ルコゼード}「Ribena」^{ライビーナ}等の主カブランドを中心に積極的なマーケティング活動を展開しました。フランスでは、「Orangina」で新たな広告宣伝を行うなど、ブランドコミュニケーションを刷新しました。英国では、「Lucozade Sports」でラグビーワールドカップに合わせたキャンペーンを展開しました。また、欧州全体での成長に向けて、コスト削減に加え事業基盤の最適化やシナジーの創出に継続的に取り組みました。

アジアでは、各国において事業基盤の強化や主カブランドを中心としたマーケティング活動に取り組みました。健康食品事業では、タイにおいて「BRAND'S Essence of Chicken」^{フランス エッセンス オブ チキン}の発売180周年を記念したプロモーションを展開しました。飲料事業では、ベトナムでサントリーブランドの展開エリアの拡大や生産体制の強化に取り組み、引き続き販売が大幅に伸長しました。新たな営業体制を構築したマレーシア等においても、販売が好調に推移しました。

オセアニアでは、フルコア・グループが主カブランド「V」^{ヴィ}の活性化に加え、サントリーブランド商品「OVI」^{オヴィ}で積極的なマーケティング活動を行いました。

米州では、ノースカロライナ州を中心にペプシコブランドのさらなる販売強化に加え、物流拠点統合に向けた取り組み等、事業効率の改善を進めました。

これらの結果、飲料・食品セグメントの売上高は、1兆139億円(前年同期比108.4%)、営業利益は841億円(同107.2%)となりました。

〈酒類セグメント〉

[ビームサントリー社](#)は、北米や日本で好調に推移。「[メーカーズマーク](#)」「[ノブ クリーク](#)」「[ベイゼル ハイデン](#)」等が伸長するなど、前年同期比136%の売上となりました。

北米では、「メーカーズマーク」「ノブ クリーク」「ベイゼル ハイデン」「[ラフロイグ](#)」をはじめとするプレミアムウイスキーが好調に推移しました。日本を除く欧州などその他地域では、「[ジムビーム](#)」などが伸長しました。また、マーケティング活動では、欧米で「響」などの、アジアで「角瓶」のブランド力強化を積極的に行いました。

日本においては、サントリースピリッツ(株)が前年同期比108%の売上となりました。

ウイスキーは、主要ブランドが好調に推移し、前年同期比113%と伸長しました。「角瓶」は食との相性訴求をテーマにしたマーケティング活動などにより、前年同期比114%と伸長しました。国産プレミアムウイスキーは、3月に発売した「[響 JAPANESE HARMONY](#)」に続き、9月に発売した「知多」も好調な販売となりました。「ジムビーム」は“シトラスハイボール”という飲み方提案を軸にお客様接点の拡大を図った結果、前年同期比159%と極めて好調に推移しました。

RTDは、前年同期比114%と大幅に伸長しました。「[-196°C ストロングゼロ](#)」は食との相性に高い評価をいただき、前年同期比119%と好調に推移しました。2月に発売した「[こくしぼり](#)」は豊かな果実感と深みのあるコクにご好評いただき、年間計画を上方修正しました。またハイボール人気が家庭用にも広がっている中、「[角ハイボール缶](#)」「[トリスハイボール缶](#)」ともに好調に推移し、ハイボール缶は前年同期比119%と引き続き伸長しました。

[サントリービール\(株\)](#)は、総市場^{※1}が前年同期比99%程度と推定される中、5,331万ケース^{※2}(前年同期比100.2%)の販売数量となりました。

「[ザ・プレミアム・モルツ](#)」は、積極的なマーケティング活動を展開し、お客様との接点拡大を図りました。「[ザ・モルツ](#)」は、9月の発売から約1ヶ月で当初の年内計画の約7割を販売するなど好調な滑り出しとなりました。「[金麦](#)」ブランドは、新ジャンル市場を5ポイント程度上回る前年同期比101%となりました。ノンアルコールビールテイスト飲料No.1ブランド^{※3}の「[オールフリー](#)」は、「[オールフリー コラーゲン](#)」の発売やフレーバー展開などを行いユーザーの拡大に取り組みました。

※1 ノンアルコールビールテイスト飲料を含む

※2 大瓶換算(1ケース=633ml×20本)

※3 インテージSRI調べ 14年1月～14年12月(全国SM/CVS/酒DS/一般・業務用酒店計)

[サントリーワインインターナショナル\(株\)](#)のワイン事業は、前年同期比105%となりました。国産ワインは、「[酸化防止剤無添加の美味しいワイン](#)。」ブランドが前年同期比121%と大きく伸長しました。また、国産ぶどう100%ワイン“日本ワイン”が堅調に推移する中、「[ジャンプレミアム 岩垂原メルロ 2010](#)」が国際ワインコンクールで「日本ワイン特別賞」「金賞」を同時に受賞しました。輸入ワインは、新商品「[サンタ バイ サンタ カロリーナ](#)」を投入したチリワインや中高価格帯商品が好調に推移しました。

これらの結果、酒類セグメントの売上高は、7,367億円(前年同期比121.0%)、営業利益は476億円(同127.3%)となりました。

〈その他セグメント〉

[サントリーウエルネス\(株\)](#)、[\(株\)ダイナック](#)、[ハーゲンダッツジャパン\(株\)](#)などが事業を展開しました。また、当社が保有していた(株)ティップネスの全株式を昨年末に譲渡したことなどから、その他セグメントの売上高は2,199億円(前年同期比92.1%)、営業利益は242億円(同100.3%)となりました。

なお、国内売上高は1兆2,041億円(前年同期比103.8%)、海外売上高は7,663億円(同123.1%)となりました。また、売上の海外比率は39%、のれん等償却前営業利益の海外比率は53%となりました。

当社は、創業以来、積極的に事業を展開するとともに、創業の精神である『利益三分主義』に基づき、文化・社会貢献、環境活動などにも取り組んでいます。また、『水と生きる SUNTORY』というコーポレートメッセージのもと、社会と自然との共生を目指したさまざまな活動を展開しています。

東日本大震災の復興支援活動は、震災以降累計108億円の規模で、「漁業の復興支援」「未来を担う子どもたちの支援」「チャレンジド・スポーツ(障がい者スポーツ)支援」「文化・スポーツを通じた支援」を柱に継続して実施しています。

環境活動では、水源涵養活動を展開している「サントリー 天然水の森」において、引き続き積極的な活動を展開、水源涵養面積は約8,000ha となりました。2020年までに国内工場で使用する地下水量の2倍の水を育む面積である12,000ha を目指していきます。子どもたちに水の大切さを伝える次世代環境教育「水育^{みずいく}」は、活動開始以来の参加者が10万人を突破しました。また、海外初となる「水育」をベトナムで開始しました。さらに、容器包装の軽量化や生産工程での節水・省エネルギー活動を推進しました。

2.通期の見通し

2015年12月期の売上高は、2兆6,500億円(前年同期比107.9%)、営業利益1,930億円(同117.1%)、当期純利益500億円(同130.3%)を予定しています。経常利益は、サントリー食品インターナショナル(株)の業績予想修正を受け、2015年2月発表の業績予想を1,620億円(前年同期比105.3%)に修正しました。

なお、のれん等償却前利益では、営業利益2,610億円(前年同期比120.9%)、経常利益2,300億円(同112.2%)、当期純利益1,080億円(同136.5%)となります。

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

期 別 科 目	前連結会計年度 (2014年12月31日現在)	当第3四半期連結会計期間 (2015年9月30日現在)	増 減
	金 額	金 額	金 額
(資 産 の 部)			
I 流動資産	1,166,254	1,203,652	37,398
現金及び預金	199,331	245,657	46,325
受取手形及び売掛金	376,398	364,386	△12,012
たな卸資産	452,874	456,206	3,332
その他	139,932	139,410	△522
貸倒引当金	△2,282	△2,007	275
II 固定資産	3,368,824	3,426,664	57,839
1.有形固定資産	676,606	680,989	4,383
建物及び構築物	185,309	193,172	7,863
機械装置及び運搬具	253,480	246,453	△7,026
工具、器具及び備品	69,266	64,811	△4,454
土地	107,362	107,017	△345
その他	61,187	69,533	8,346
2.無形固定資産	2,506,267	2,537,397	31,130
のれん	1,118,703	1,155,270	36,566
商標権	1,323,906	1,291,392	△32,514
その他	63,656	90,734	27,078
3.投資その他の資産	185,951	208,277	22,326
投資有価証券	122,396	127,312	4,915
その他	65,442	82,297	16,854
貸倒引当金	△1,888	△1,331	556
III 繰延資産	1,458	983	△474
資産合計	4,536,537	4,631,300	94,762

(単位:百万円)

期 別 科 目	前連結会計年度 (2014年12月31日現在)	当第3四半期連結会計期間 (2015年9月30日現在)	増 減
	金 額	金 額	金 額
(負 債 の 部)			
I 流動負債	779,677	945,949	166,271
支払手形及び買掛金	144,436	150,083	5,647
電子記録債務	104,848	131,197	26,349
短期借入金	87,873	189,917	102,043
1年内償還予定の社債	10,900	48,546	37,646
未払酒税	51,561	36,208	△15,352
未払消費税等	22,236	18,277	△3,958
未払法人税等	22,297	24,983	2,686
未払金	142,376	155,189	12,812
未払費用	93,388	74,552	△18,836
賞与引当金	20,737	29,803	9,065
その他	79,021	87,188	8,166
II 固定負債	2,566,103	2,522,495	△43,607
社債	476,151	425,672	△50,479
長期借入金	1,470,386	1,447,993	△22,393
役員退職慰労引当金	684	1,019	334
退職給付に係る負債	36,372	33,463	△2,908
その他	582,509	614,347	31,838
負債合計	3,345,781	3,468,445	122,663
(純 資 産 の 部)			
I 株主資本	739,505	777,127	37,621
資本金	70,000	70,000	—
資本剰余金	△20,739	△20,837	△98
利益剰余金	692,849	730,250	37,400
自己株式	△2,604	△2,285	319
II その他の包括利益累計額	142,516	77,567	△64,949
その他有価証券評価差額金	20,322	26,854	6,532
繰延ヘッジ損益	1,239	△1,442	△2,682
為替換算調整勘定	132,379	63,211	△69,167
退職給付に係る調整累計額	△11,425	△11,057	367
III 少数株主持分	308,733	308,160	△572
純資産合計	1,190,756	1,162,855	△27,900
負債純資産合計	4,536,537	4,631,300	94,762

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	前第3四半期連結累計期間 (自 2014年 1月 1日 至 2014年 9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2015年 1月 1日 至 2015年 9月30日)	増 減
	金 額	金 額	金 額
I 売 上 高	1,782,444	1,970,355	187,910
II 売 上 原 価	894,042	974,173	80,130
売 上 総 利 益	888,402	996,182	107,780
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	771,521	865,572	94,050
営 業 利 益	116,880	130,610	13,730
IV 営 業 外 収 益	8,246	6,730	△1,515
受 取 利 息	809	349	△459
受 取 配 当 金	4,647	2,171	△2,476
雑 収 入	2,790	4,209	1,419
V 営 業 外 費 用	15,124	28,131	13,007
支 払 利 息	12,525	21,342	8,816
雑 支 出	2,598	6,789	4,190
経 常 利 益	110,002	109,209	△793
VI 特 別 利 益	391	22,030	21,639
段 階 取 得 に 係 る 差 益	—	15,698	15,698
そ の 他	391	6,332	5,941
VII 特 別 損 失	21,108	21,687	579
減 損 損 失	237	10,413	10,175
買 収 関 連 費 用	8,816	—	△8,816
組 織 再 編 関 連 費 用	7,114	5,693	△1,420
そ の 他	4,938	5,580	641
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 利 益	89,285	109,552	20,266
法 人 税 等	40,389	56,858	16,468
少 数 株 主 損 益 調 整 前 四 半 期 純 利 益	48,895	52,693	3,797
少 数 株 主 利 益	19,467	20,610	1,142
四 半 期 純 利 益	29,428	32,083	2,655

セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営陣が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は持株会社制を導入し、持株会社である当社の下、製品・サービス別の事業分野別に事業会社等を設置しています。各事業会社等は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

したがって、当社グループは事業会社等を中心とした製品・サービス別のセグメントから構成され、「飲料・食品事業」、「酒類事業」の2つを報告セグメントとしています。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

前連結会計年度より、2014年10月1日に実施した組織変更に伴い、「ビール・スピリッツセグメント」を「酒類セグメント」に変更するとともに、従来、「その他」の区分に含まれていたワイン事業を「酒類セグメント」に移管しています。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、組織変更後の報告セグメントの区分に基づき組替を行い、表示しています。

各報告セグメントと「その他」の区分に属する主な製品・サービスの種類は以下のとおりです。

飲料・食品……………清涼飲料、健康飲料、加工食品 他
 酒類……………スピリッツ、ビール類、ワイン 他
 その他……………中国事業、健康食品、アイスクリーム、外食、花 他

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 2014年1月1日 至 2014年9月30日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	酒類	その他	計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	935,010	608,632	238,801	1,782,444	—	1,782,444
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,632	2,975	7,620	17,228	△ 17,228	—
計	941,643	611,608	246,422	1,799,673	△ 17,228	1,782,444
セグメント利益	78,509	37,421	24,134	140,065	△ 23,185	116,880

当第3四半期連結累計期間(自 2015年1月1日 至 2015年9月30日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	酒類	その他	計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	1,013,850	736,652	219,852	1,970,355	—	1,970,355
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,114	3,609	7,874	18,598	△ 18,598	—
計	1,020,964	740,262	227,727	1,988,954	△ 18,598	1,970,355
セグメント利益	84,147	47,649	24,200	155,997	△ 25,386	130,610

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれています。全社費用は、当社において発生するグループ管理費用です。

それぞれの金額は次のとおりです。

前第3四半期連結累計期間

セグメント利益の調整額 △ 23,185 百万円
 各報告セグメントに配分していない全社費用 △ 23,233 百万円
 セグメント間取引消去 48 百万円

当第3四半期連結累計期間

セグメント利益の調整額 △ 25,386 百万円
 各報告セグメントに配分していない全社費用 △ 25,443 百万円
 セグメント間取引消去 56 百万円

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。